

令和4年度

大田区多文化共生実態調査

【概要版】

令和5年3月

大田区

本調査の概要

1. 回答者の属性

(1) 目的

- ・この調査は大田区内の外国人区民および日本人区民の意識・要望を把握し、その結果を「国際都市おおた」多文化共生推進プランに反映させ、今後の多文化共生推進に向けた事業展開に役立てることを目的に実施しました。

(2) 調査概要と回収結果

		外国人区民調査	日本人区民調査
調査概要	調査地域	大田区全域	
	調査対象者	18歳以上の外国人区民 3,000人	18歳以上の日本人区民 1,500人
	抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出	住民基本台帳より無作為抽出
	調査方法	郵送配布・郵送回収、一部オンライン調査併用	
	調査期間	令和4年10月12日(水)～10月31日(月)	
	言語	英語、中国語、タガログ語、ネパール語、ベトナム語、日本語ルビ付き	日本語
回収結果	配布数	3,000票	1,500票
	有効回収数	803票 (郵送回収：465票 web回収：338票)	558票 (郵送回収：383票 web回収：175票)
	有効回収率	26.8%	37.2%

(3) 調査項目

◆外国人区民調査(2p～)

1. 回答者の属性
2. ことばについて
3. 大田区の取組への評価について
4. 日ごろの暮らしについて
5. 防災について
6. 情報提供・相談体制について
7. 地域での交流について

◆日本人区民調査(12p～)

1. 回答者の属性
2. 外国人との関わりなどについて
3. 多文化共生のまちづくりについて

(4) 調査結果(概要版)を見る上での注意事項

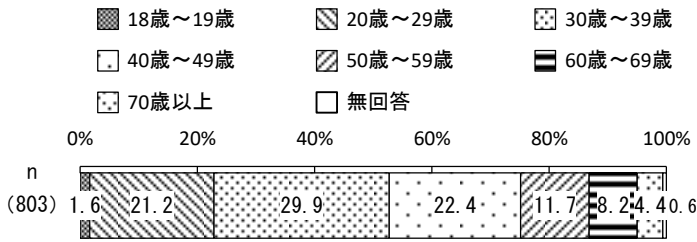
- ・図表中で使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示している。従って、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

外国人区民調査の結果

1. 回答者の属性 (F1~F10)

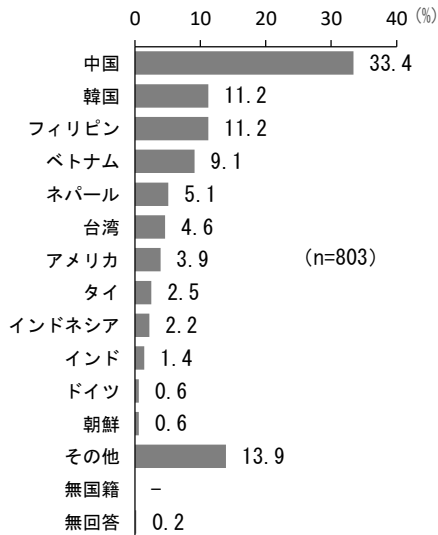
(1) 年齢

・「30歳～39歳」が29.9%で最も高い。



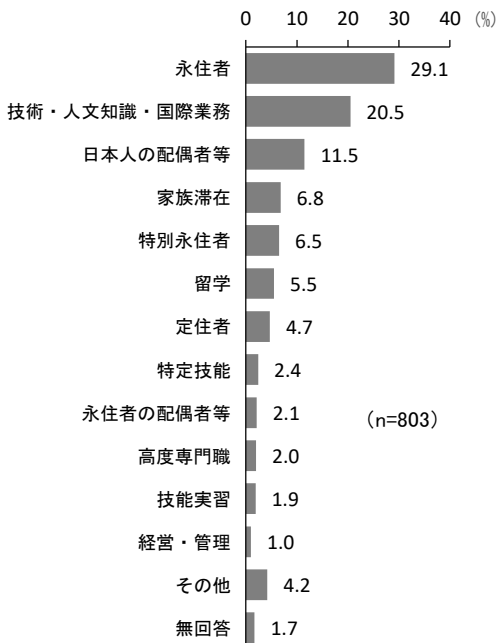
(2) 国籍・地域

・「中国」が33.4%で最も高い。



(3) 在留資格

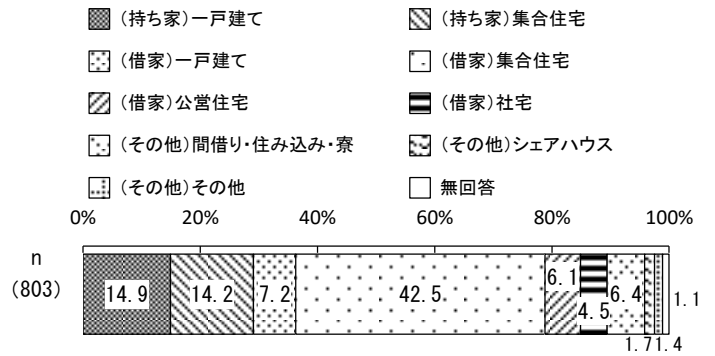
・「永住者」の割合が29.1%で最も高い。



*1%未満の項目は「その他」としている

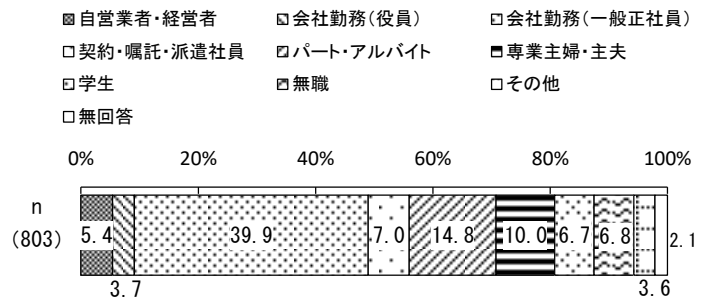
(4) 住居形態

・「(借家) 集合住宅」が42.5%で最も高い。



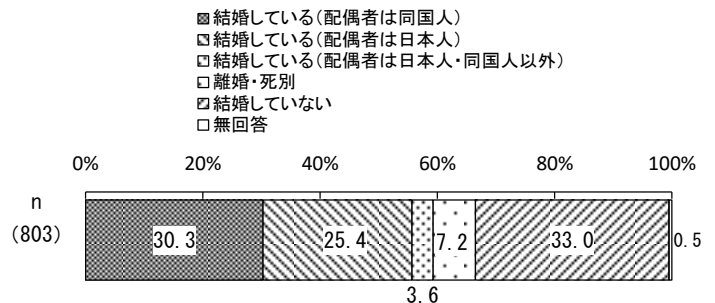
(5) 職業

・「会社勤務 (一般正社員)」が39.9%で最も高い。



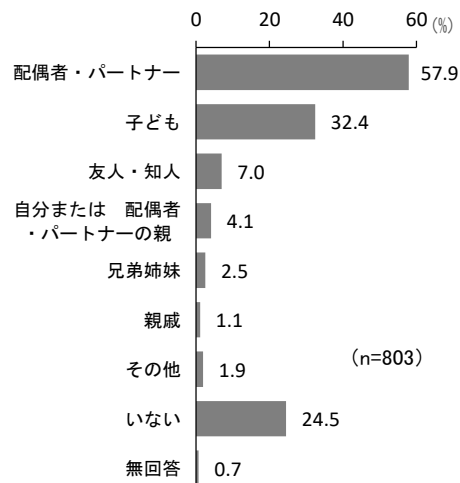
(6) 結婚の有無

・「結婚していない」が33.0%で最も高く、「結婚している (配偶者は日本人)」が30.3%で続いている。



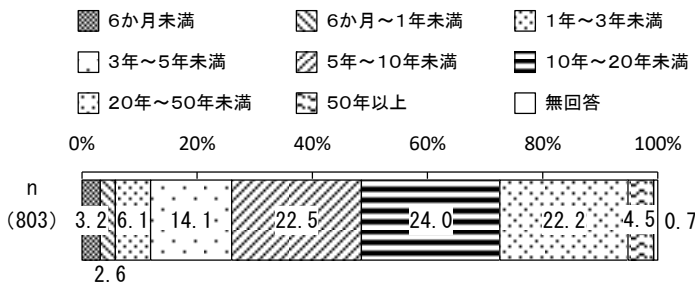
(7) 同居者 (複数回答)

・「配偶者・パートナー」が57.9%で最も高く、「子ども」が32.4%で続いている。



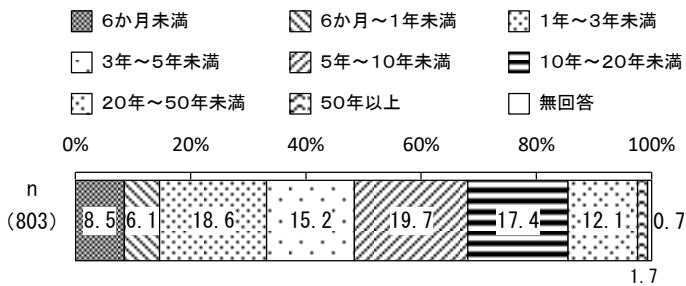
(8) 日本での在住年数

・「10年～20年未満」が24.0%で最も高く、「5年～10年未満」(22.5%)、「20年～50年未満」(22.2%)が続いている。



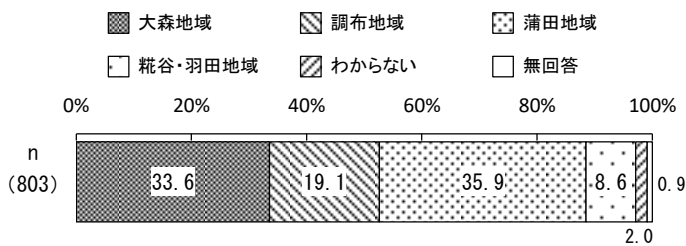
(9) 大田区での在住年数

・「5年～10年未満」が19.7%で最も高く、「1年～3年未満」(18.6%)、「10年～20年未満」(17.4%)が続いている。



(10) 居住地

・「蒲田地域」が35.9%で最も高く、「大森地域」が33.6%が続いている。

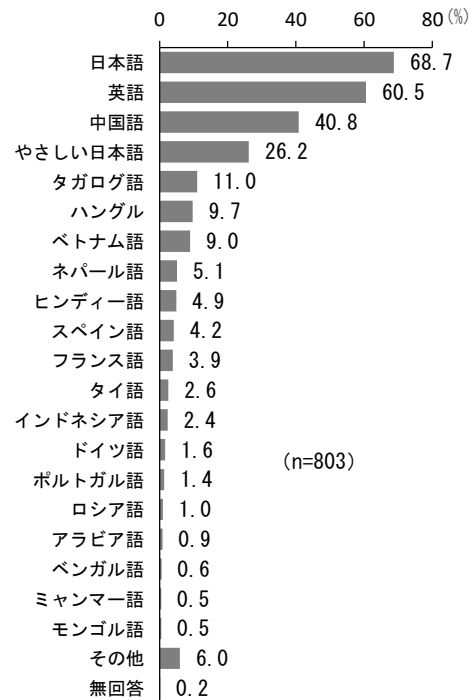


大森地域 (大森東、大森西、入新井、馬込、池上、新井宿など)
調布地域 (嶺町、田園調布、鶴の木、久が原、雪谷、千束など)
蒲田地域 (六郷、矢口、蒲田西、蒲田東など)
糎谷・羽田地域 (糎谷、羽田など)

2 ことばについて (問1～問5)

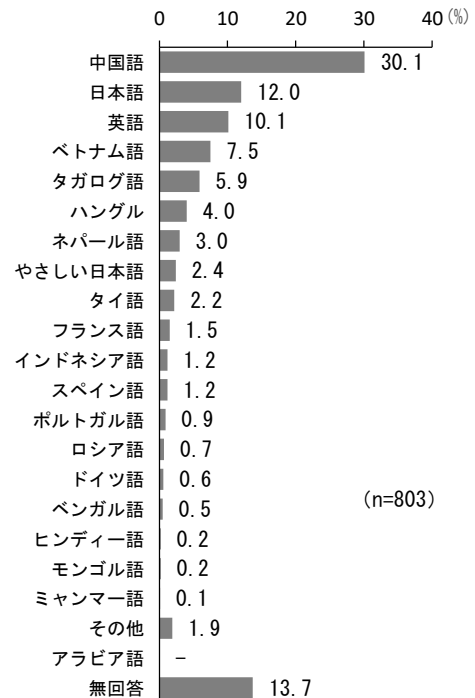
(1) わかる言語 (複数回答)

・「日本語」が68.7%で最も高く、「英語」が60.5%が続いている。



(2) 最も得意な言語

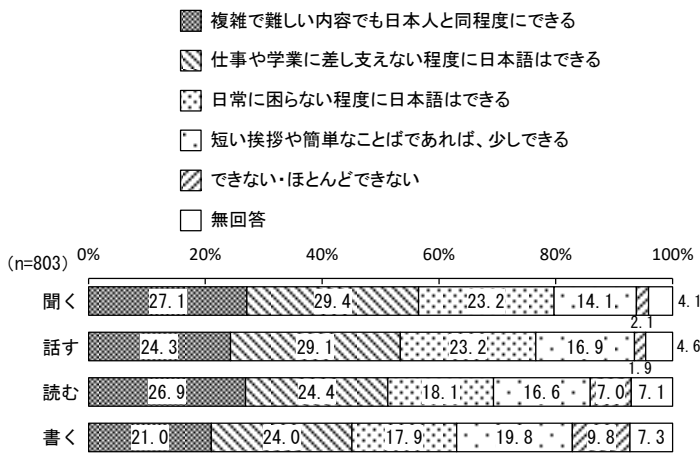
・「中国語」が30.1%で最も高い。



※単数回答の設問であるが、グラフの見やすさを考慮して横棒グラフで表示している。

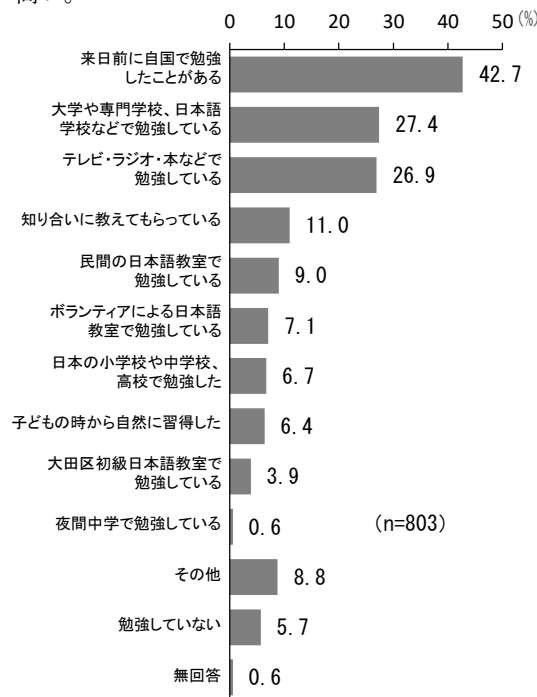
(3) 日本語能力

・「複雑で難しい日本語でも日本人と同程度にできる」「仕事や学業に差し支えない程度に日本語はできる」「日常に困らない程度に日本語はできる」と回答する合計の割合は、「聞く」および「話す」で75%を超えており、「読む」で69.4%、「書く」で62.9%となっている。



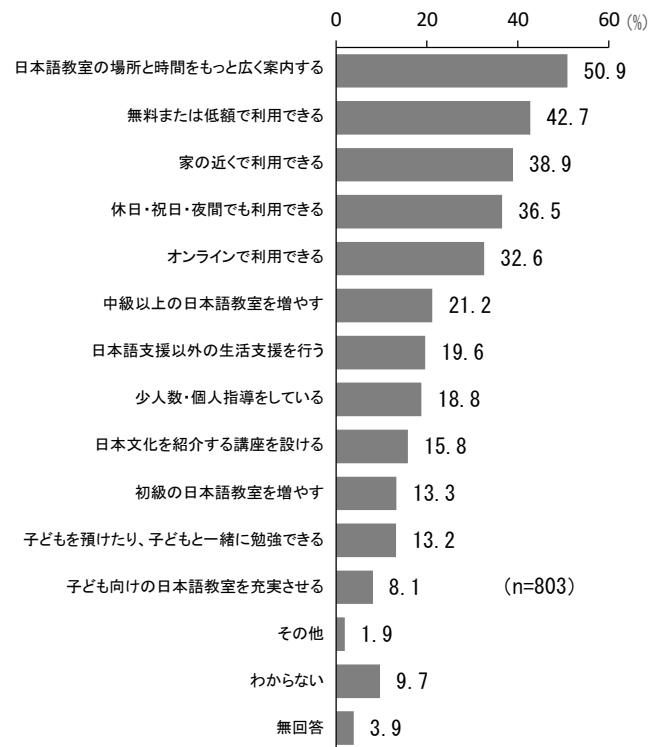
(4) 日本語の勉強に関する状況 (複数回答)

・「来日前に自国で勉強したことがある」が42.7%で最も高い。



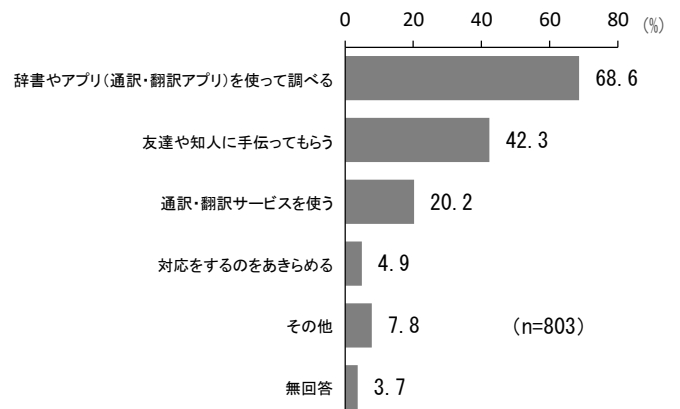
(5) 日本語教室が利用しやすくなるために大切なこと (複数回答)

・「日本語教室の場所と時間をもっと広く案内する」が50.9%で最も高い。



(6) 日本語でのコミュニケーション等が難しい際の対応 (複数回答)

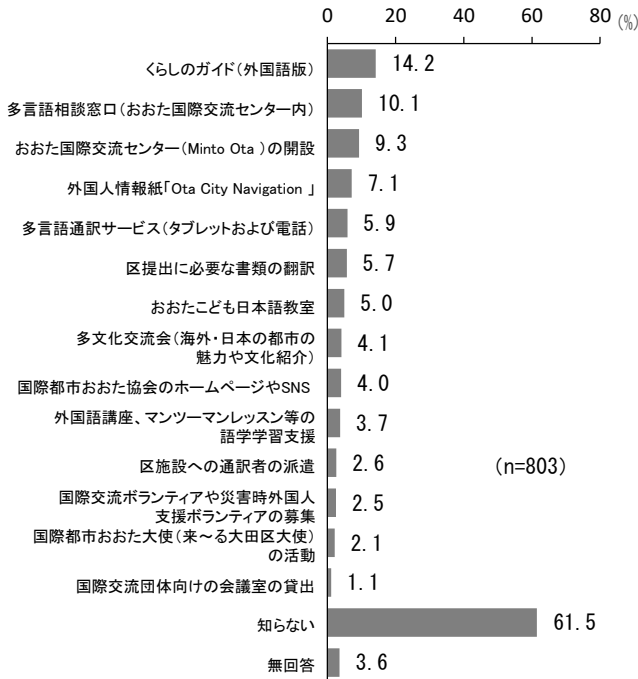
・「辞書やアプリ(通訳・翻訳アプリ)を使って調べる」が68.6%で最も高い。



3 大田区の取組への評価について (問6～問7)

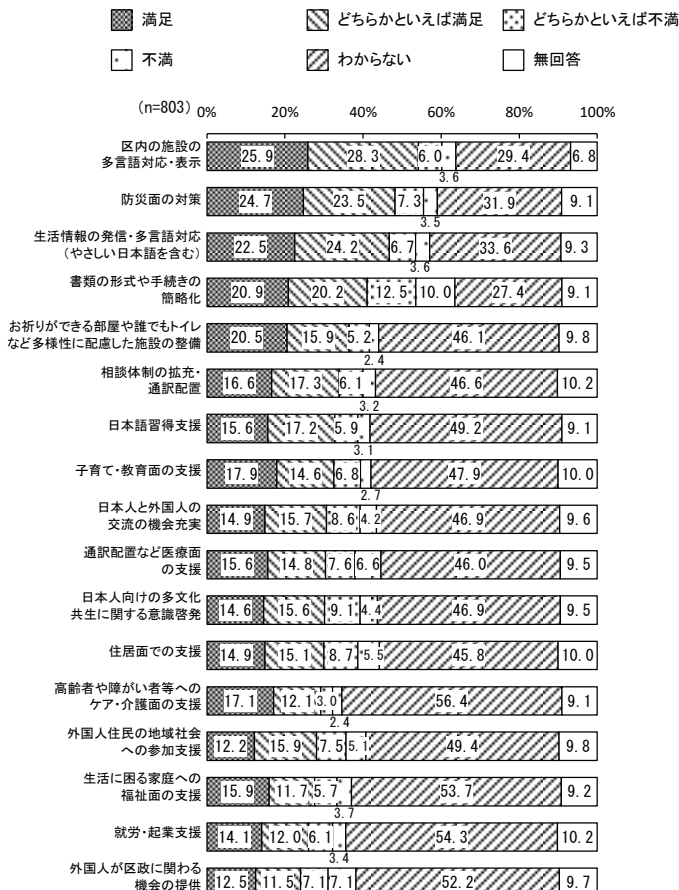
(1) 多文化共生に関するサービスや取組等の認知度 (複数回答)

・「くらしのガイド (外国語版)」が14.2%で最も高い。



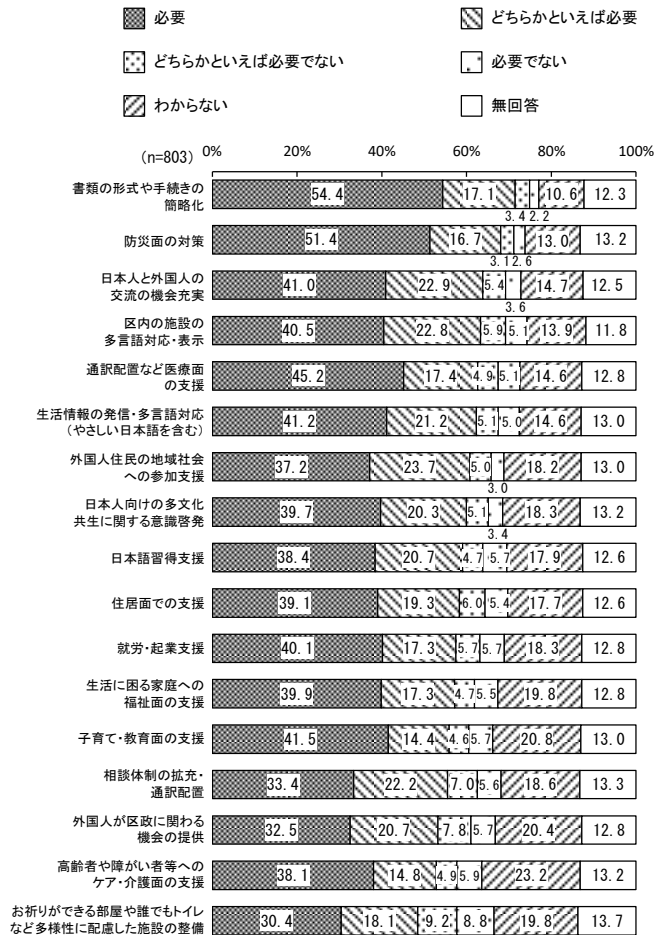
(2) ①大田区の取組に対する満足度

・「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせた割合では、「区内の施設の多言語対応・表示」が54.2%と唯一半数を超えている。



(2) ②大田区の取組に対する必要度

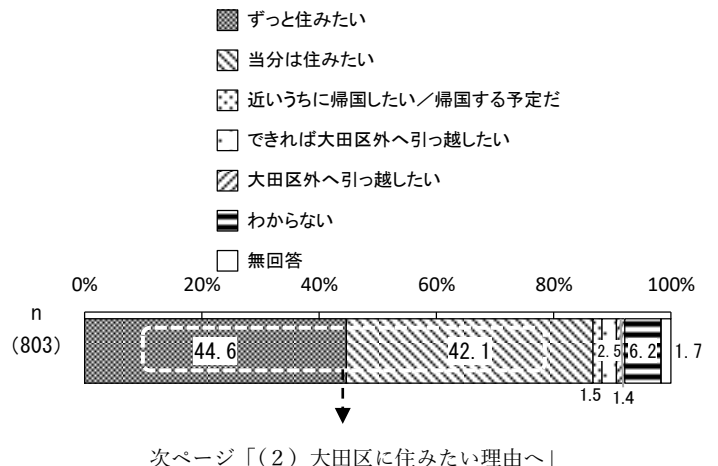
・「必要」と「どちらかといえば必要」をあわせた割合では、ほとんどの項目で半数以上となっており、特に「書類の形式や手続きの簡素化」で71.5%となっている。



4 日ごろの暮らしについて (問8～問15)

(1) 居住意向

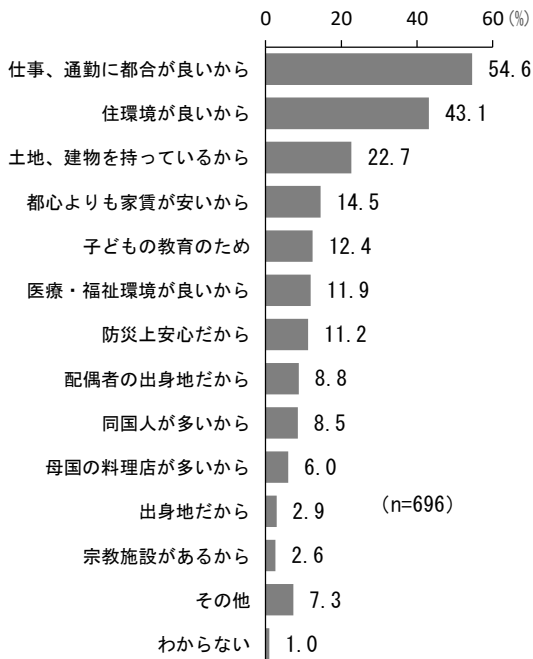
・「ずっと住みたい」(44.6%)と「当分は住みたい」(42.1%)をあわせた割合では、86.7%と高い居住意向があらわれている。



次ページ「(2) 大田区に住みたい理由へ」

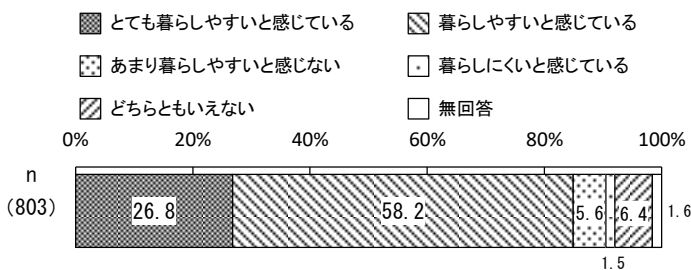
(2) 大田区に住みたい理由 (複数回答)

・「仕事、通勤に都合が良いから」が54.6%で最も高く、「住環境が良いから」が43.1%で続いている。



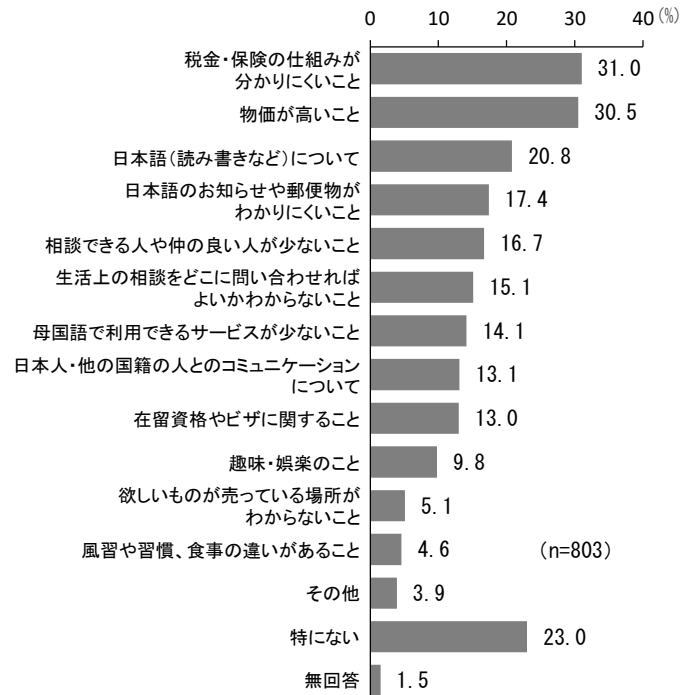
(3) 現在住んでいるまちの暮らしやすさ

・「とても暮らしやすいと感じている」(26.8%)と「暮らしやすいと感じている」(58.2%)をあわせた割合では、85.0%の外国人に暮らしやすいと評価されている。



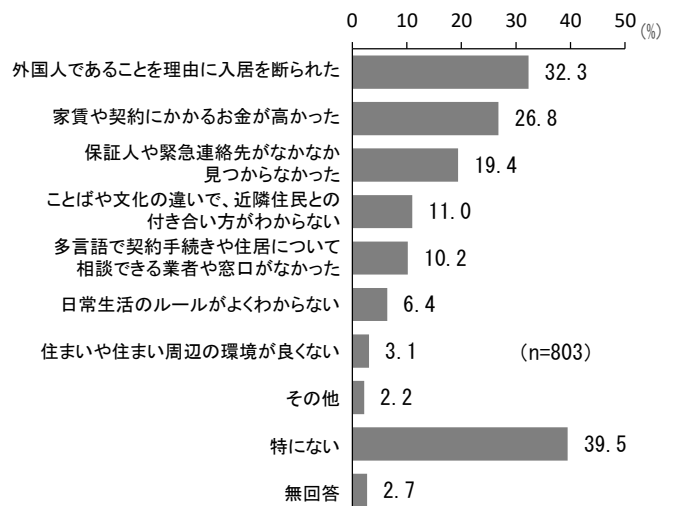
(4) 不便を感じていることや困っていること (複数回答)

・「税金・保険の仕組みが分かりにくいこと」(31.0%)、「物価が高いこと」(30.5%)が僅差で上位にあげられている。



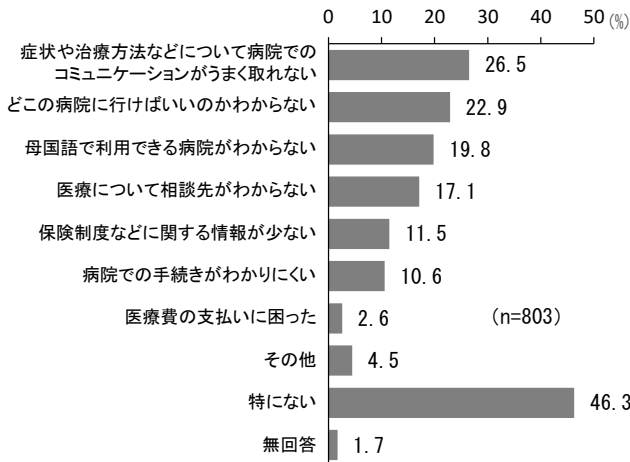
(5) 住まいに関して困ったこと (複数回答)

・「外国人であることを理由に入居を断られた」が32.3%で最も高い。



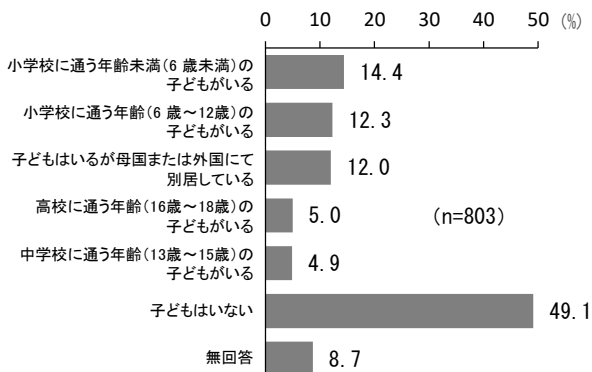
(6) 病院を利用する際に困ったこと (複数回答)

・困ったことでは、「症状や治療方法などについて病院でのコミュニケーションがうまく取れない」が26.5%で最も高い。



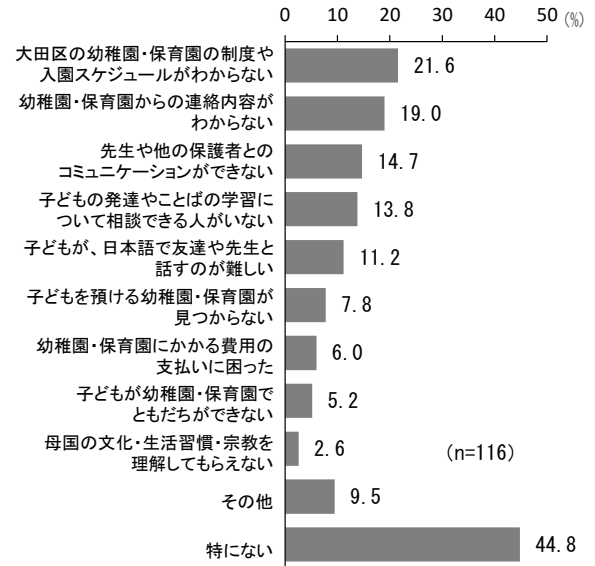
(7) 子どもの有無 (複数回答)

・「子どもはいない」が49.1%で最も高い。いる人では、「小学校に通う年齢未満(6歳未満)の子どもがいる」が14.4%となっている。



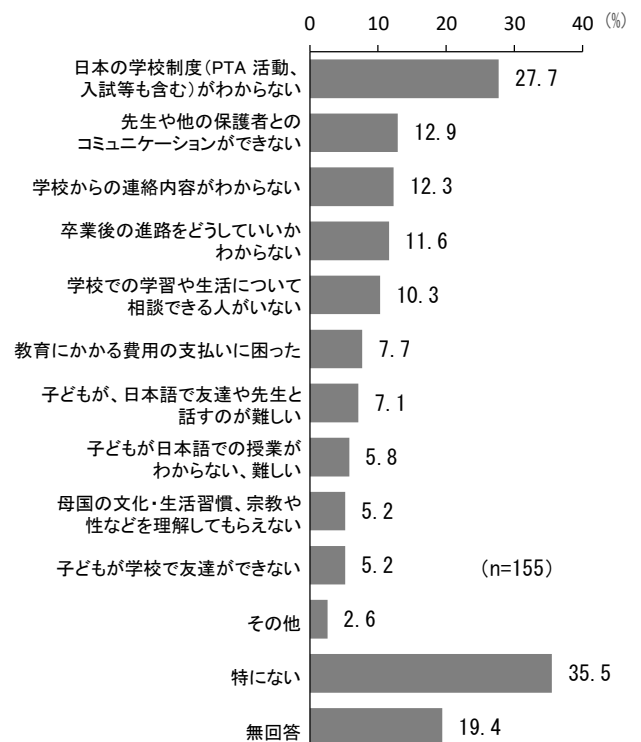
(8) 子ども又は回答者自身が幼稚園・保育園で困ったこと (複数回答)

・子どもの有無について、「小学校に通う年齢未満(6歳未満)の子どもがいる」と回答した人に、子ども又は回答者自身が幼稚園・保育園で困ったことを聞いたところ、「大田区の幼稚園・保育園の制度や入園スケジュールがわからない」が21.6%で最も高い。



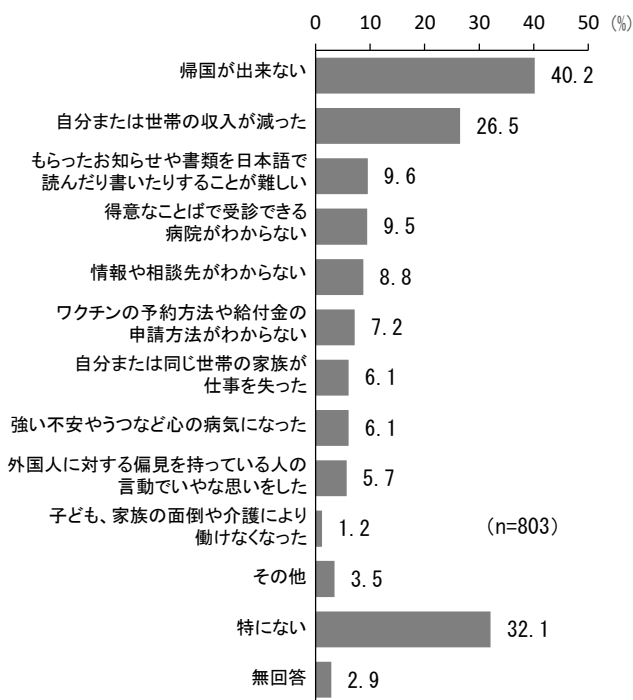
(9) 子ども又は回答者自身が学校で困ったこと (複数回答)

・子どもの有無について、「小学校に通う年齢(6歳~12歳)の子どもがいる」、「中学校に通う年齢(13歳~15歳)の子どもがいる」、「高校に通う年齢(16歳~18歳)の子どもがいる」と回答した人に、子ども又は回答者自身が学校で困ったことを聞いたところ、「日本の学校制度(PTA活動、入試等も含む)がわからない」が27.7%で最も高い。



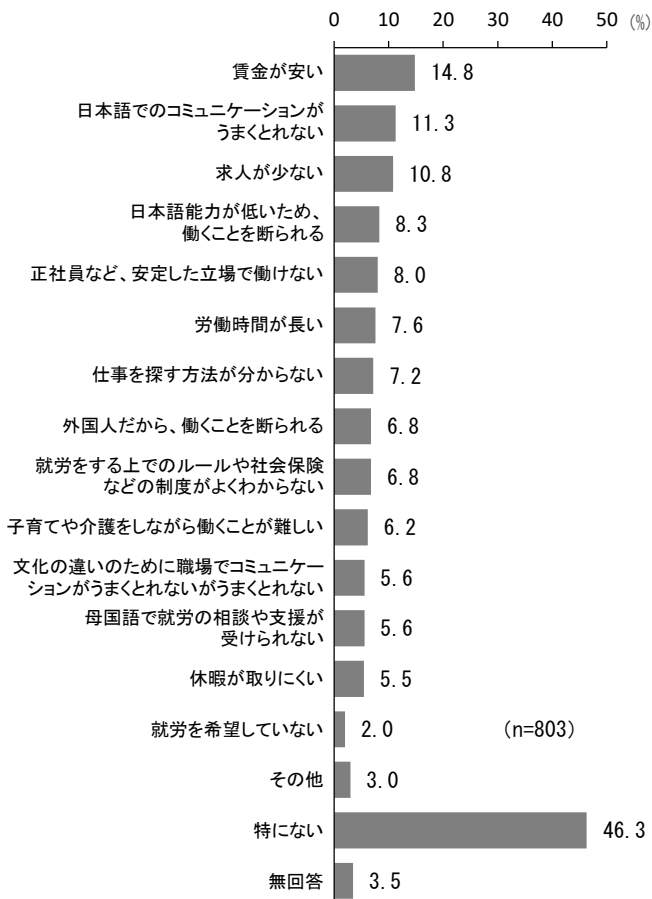
(10) 新型コロナウイルス感染拡大での困りごと (複数回答)

・「帰国が出来ない」が40.2%で最も高い。



(11) 就労の際の困りごと (複数回答)

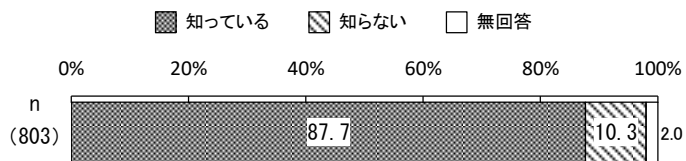
・「賃金が安い」が14.8%で最も高い。



5 防災について (問 16~問 20)

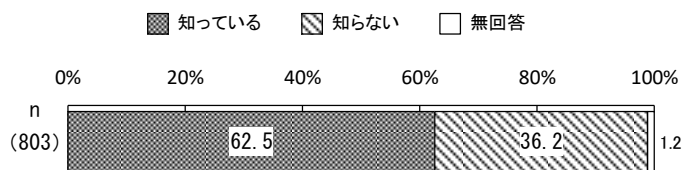
(1) 日本における災害の認知度

・「知っている」は87.7%、「知らない」は10.3%となっている。



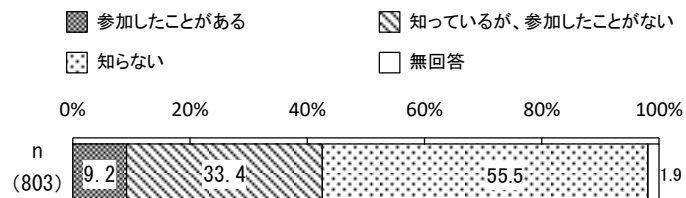
(2) 地域の避難先の認知度

・「知っている」は62.5%、「知らない」は36.2%となっている。



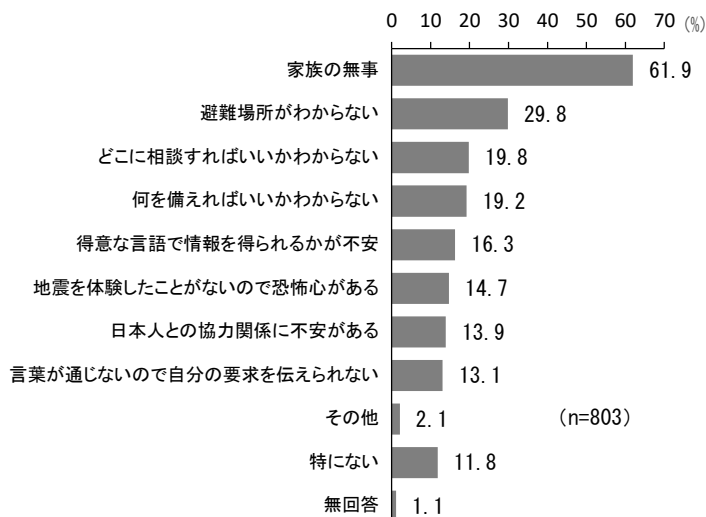
(3) 防災訓練への参加

・「参加したことがある」は9.2%となっている。「知っているが、参加したことがない」は33.4%、「知らない」は55.5%となっている。



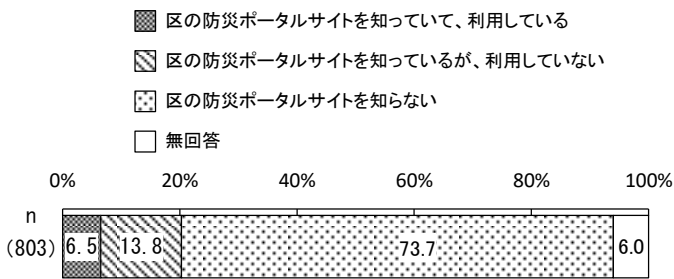
(4) 災害が起きた時に心配なこと (複数回答)

・「家族の無事」が61.9%で最も高い。



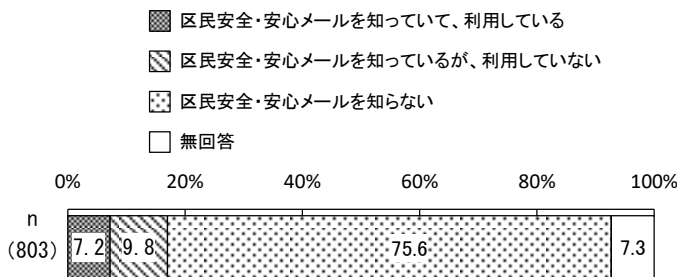
(5) 防災ポータルサイトの認知度

・「区の防災ポータルサイトを知っていて、利用している」は6.5%で、「区の防災ポータルサイトを知っているが、利用していない」(13.8%)をあわせた認知度は20.3%となっている。



(6) 区民安全・安心メールについて

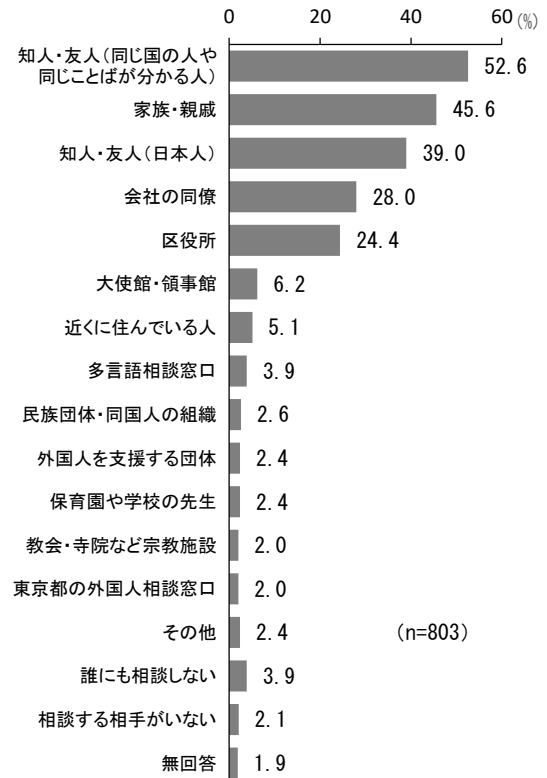
・「区民安全・安心メールを知っていて、利用している」は7.2%で、「区民安全・安心メールを知っているが、利用していない」(9.8%)をあわせた認知度は17.0%となっている。



6 情報提供・相談体制について (問 21~問 24)

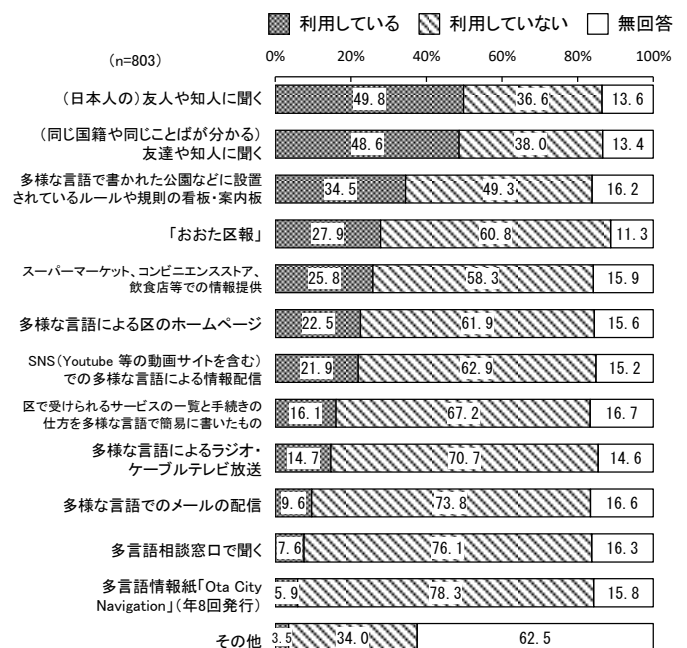
(1) 生活で困った時の相談先 (複数回答)

・「知人・友人 (同じ国の人や同じことばが分かる人) が52.6%で最も高い。



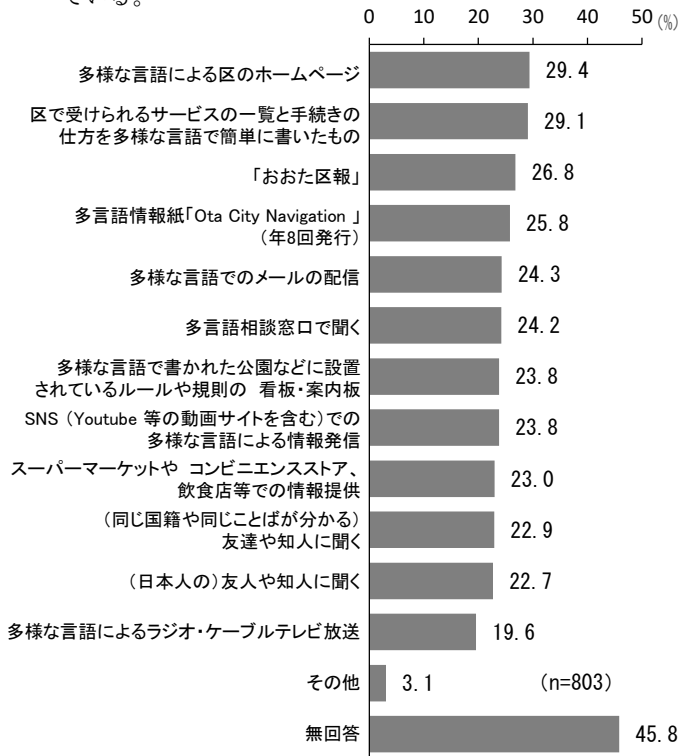
(2) 情報収集にあたって利用している手段

・「(日本人の) 友人や知人に聞く」、「(同じ国籍や同じことばが分かる) 友達や友人に聞く」が半数近く利用されている。



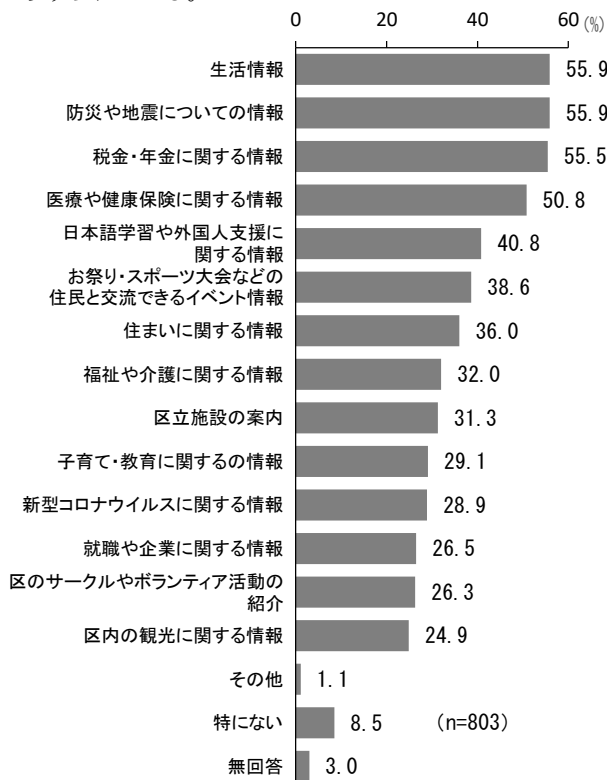
(3) 行政サービス等の周知手段の希望 (複数回答)

・「多様な言語による区のホームページ」(29.4%)、「区で受けられるサービスの一覧と手続きの仕方を多様な言語で簡単に書いたもの」(29.1%)が僅差で上位にあげられている。



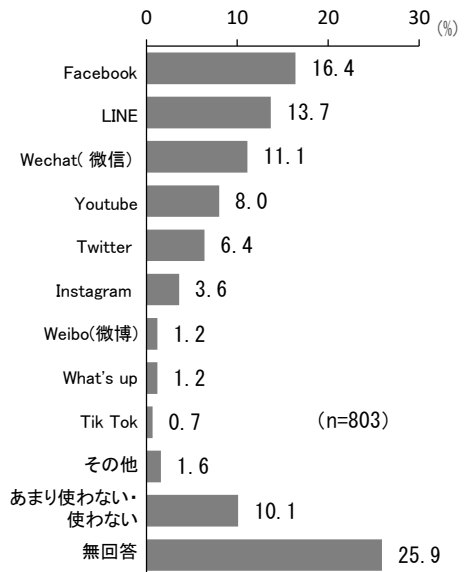
(4) 生活していく上で必要な情報 (複数回答)

・「生活情報」、「防災や地震についての情報」(ともに55.9%)、「税金・年金に関する情報」(55.5%)が上位にあげられている。



(5) 最も使うSNS (単数回答)

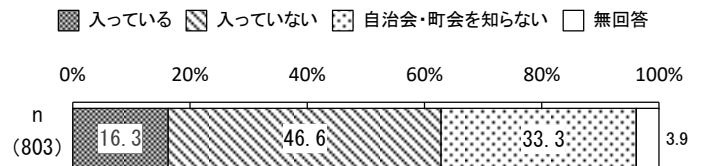
・「Facebook」が16.4%で最も多い。



7 地域での交流について (問 25～問 32)

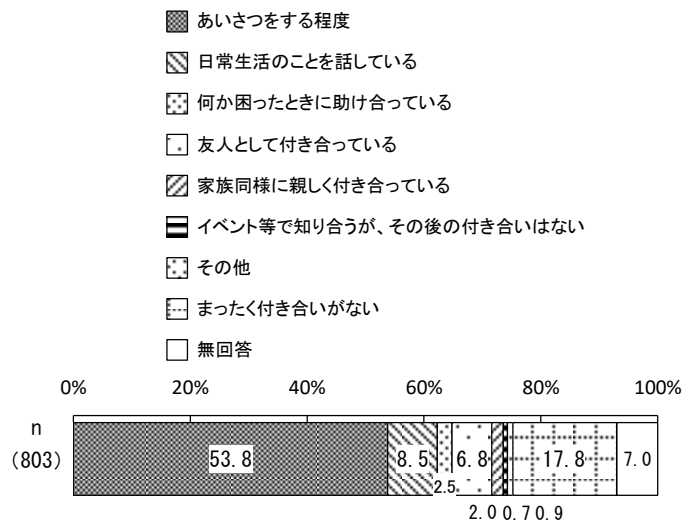
(1) 自治会・町会への加入状況

・「入っている」は16.3%、「入っていない」は46.6%となっているが、「自治会・町会を知らない」も33.3%と比較的高くなっている。



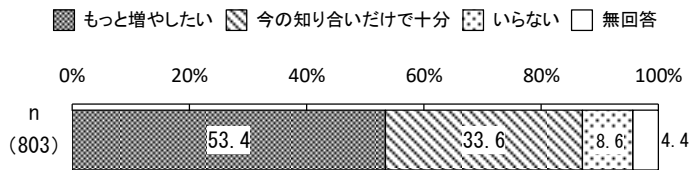
(2) 近くに住む日本人との付き合い

・「あいさつをする程度」が53.8%で最も高い。



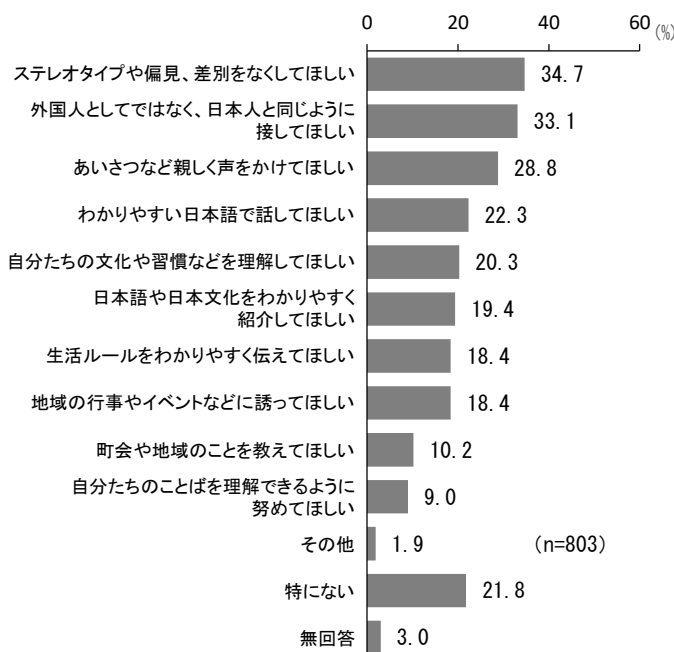
(3) 地域に日本人の知り合いがほしいか

・「もっと増やしたい」が53.4%で最も高い。



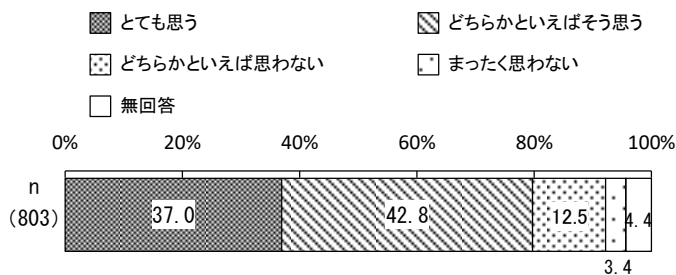
(4) 地域社会の一員として日本人に望むこと

・「ステレオタイプや偏見、差別をなくしてほしい」が34.7%で最も高く、「外国人としてではなく、日本人と同じように接してほしい」が33.1%で続いている。



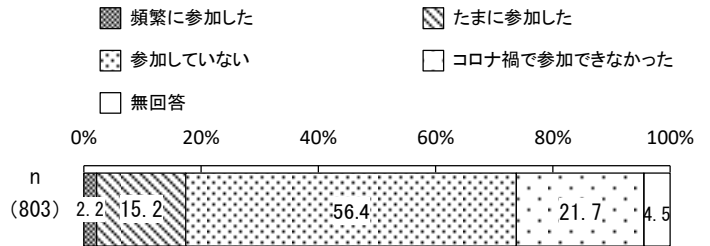
(5) 大田区では、日本人と外国人が互いに認め合い、暮らしていると思うか

・「とても思う」(37.0%)と「どちらかといえばそう思う」(42.8%)をあわせた79.8%の外国人は、日本人と互いに認め合い、暮らしていると考えている。



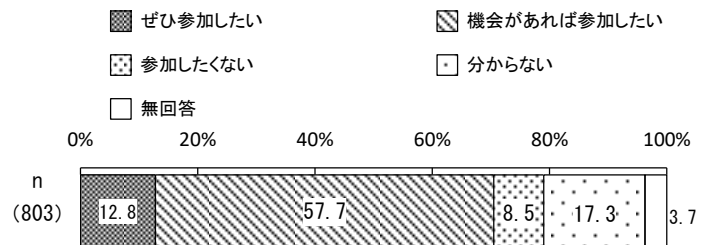
(6) 直近1年間の地域活動への参加状況

・「頻繁に参加した」(2.2%)と「たまに参加した」(15.2%)をあわせた参加経験者は17.4%となっている。一方、「参加していない」は56.4%となっている。



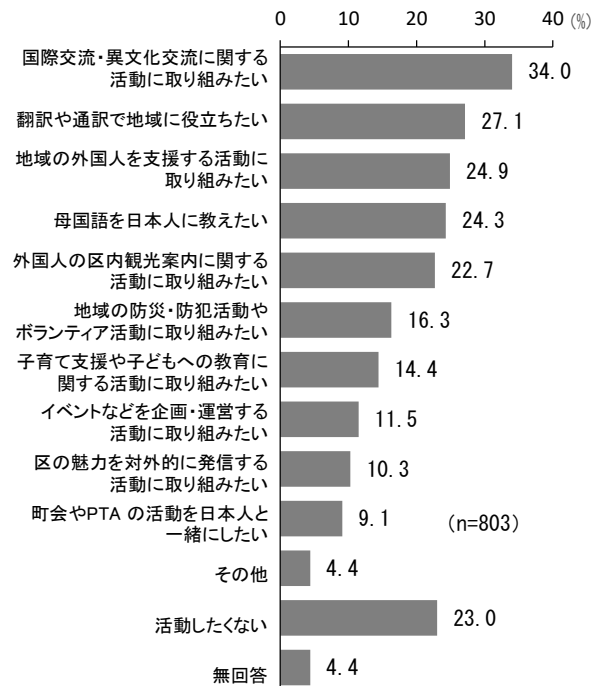
(7) 今後の参加意向

・「ぜひ参加したい」(12.8%)と「機会があれば参加したい」(57.7%)をあわせた参加意向のある外国人は70.5%となっている。



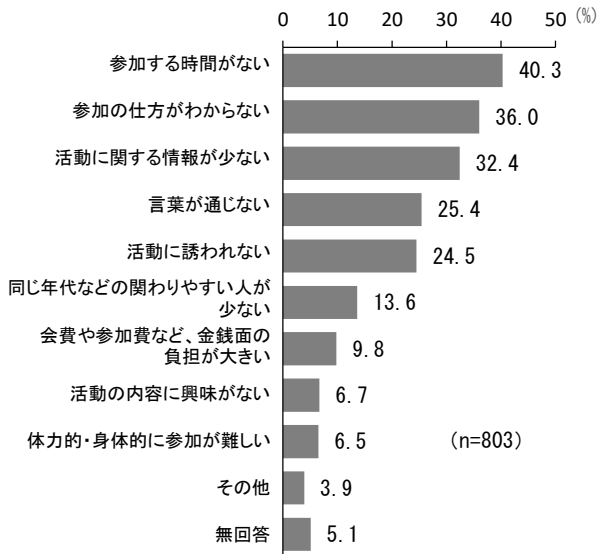
(8) 地域の中で活動してみたいこと(複数回答)

・「国際交流・異文化交流に関する活動に取り組みたい」が34.0%で最も高い。



(9) 地域活動に参加する上での困りごと (複数回答)

・「参加する時間がない」が40.3%で最も高い。

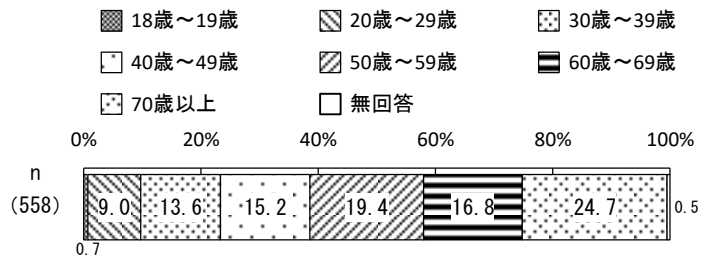


日本人区民調査の結果

1. 回答者の属性 (F1~F10)

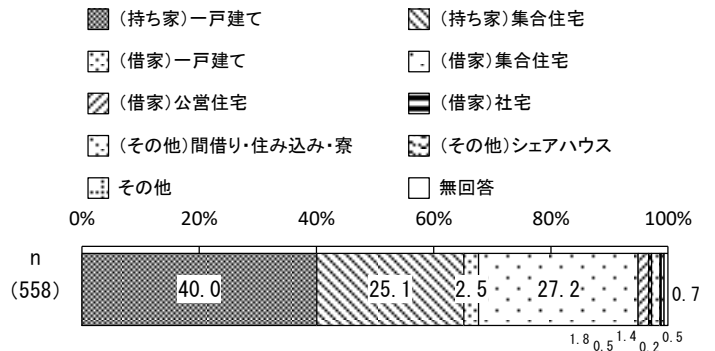
(1) 年齢

・「70歳以上」が24.7%で最も高い。



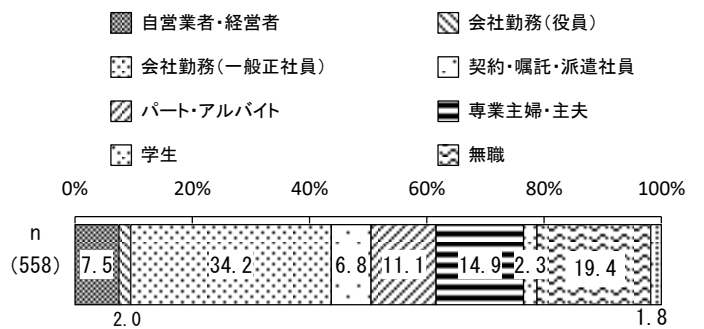
(2) 住居

・「(持ち家)一戸建て」が40.0%で最も高い。



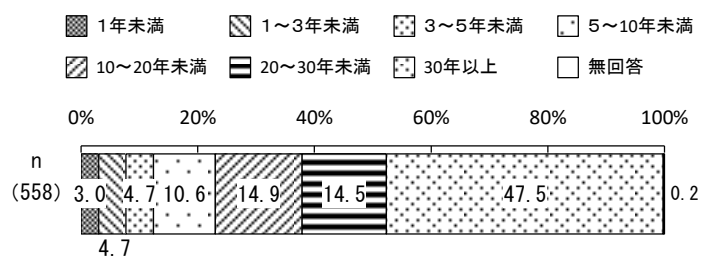
(3) 職業

・「会社勤務(一般正社員)」が34.2%で最も高い。



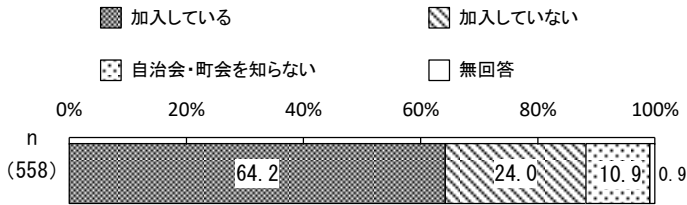
(4) 居住年数

・「30年以上」の長期居住者が47.5%で最も高い。



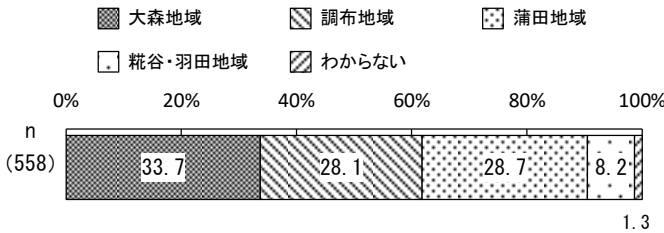
(5) 自治会・町会の加入状況

・「加入している」が64.2%となっている。



(6) 居住地域

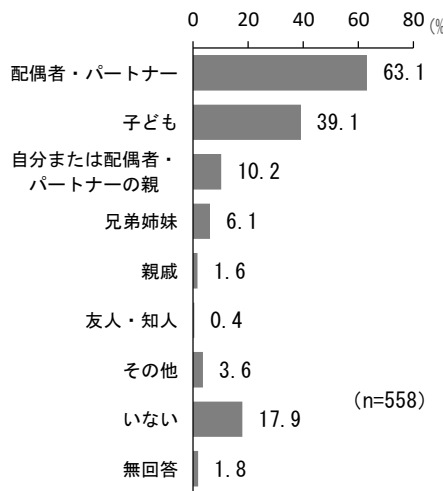
・「大森地域」が33.7%で最も高い。



大森地域 (大森東、大森西、入新井、馬込、池上、新井宿など)
 調布地域 (嶺町、田園調布、鶯の木、久が原、雪谷、千束など)
 蒲田地域 (六郷、矢口、蒲田西、蒲田東など)
 糎谷・羽田地域 (糎谷、羽田など)

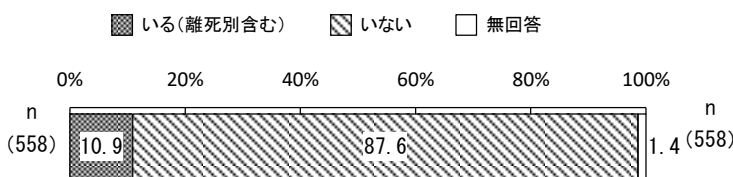
(7) 同居者 (複数回答)

・「配偶者・パートナー」が63.1%で最も高く、「子ども」が39.1%で続いている。



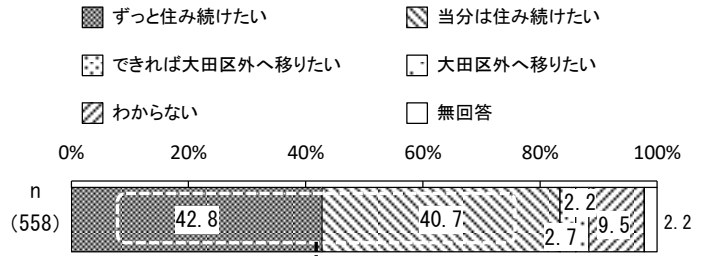
(8) 外国人や外国にルーツを持つ家族や親戚の有無

・「いる (離死別含む)」が10.9%、「いない」が87.6%となっている。



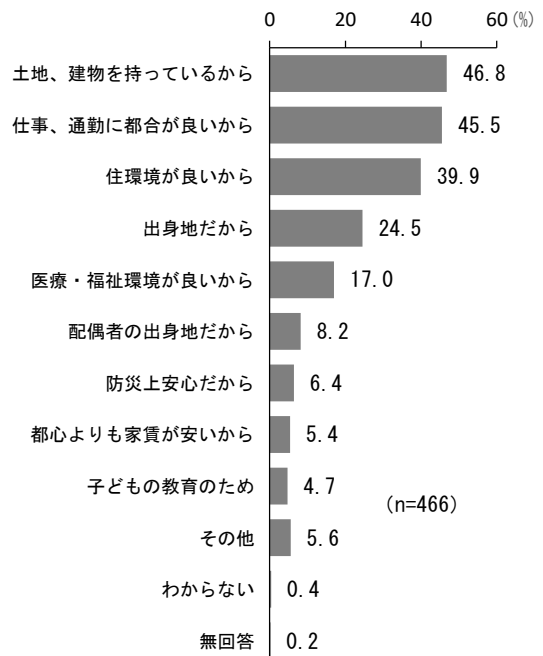
(9) 定住意向

・「ずっと住み続けたい」(42.8%)と「当分は住み続けたい」(40.7%)をあわせた割合では、83.5%と高い定住意向がみられる。



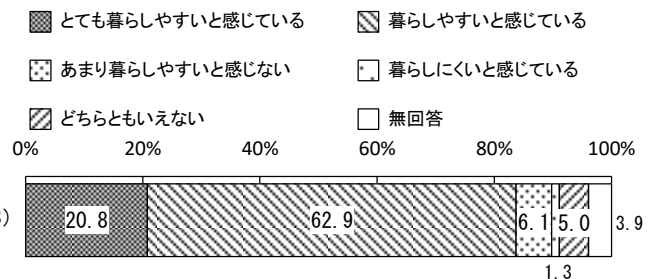
(9-1) これからも大田区に住みたい理由 (複数回答)

・「土地、建物を持っているから」が46.8%で最も高く、「仕事、通勤に都合が良いから」が45.5%で続いている。



(10) 現在住んでいるまちの暮らしやすさ

・「とても暮らしやすいと感じている」(20.8%)と「暮らしやすいと感じている」(62.9%)をあわせた割合では、83.7%の日本人に暮らしやすいと評価されている。

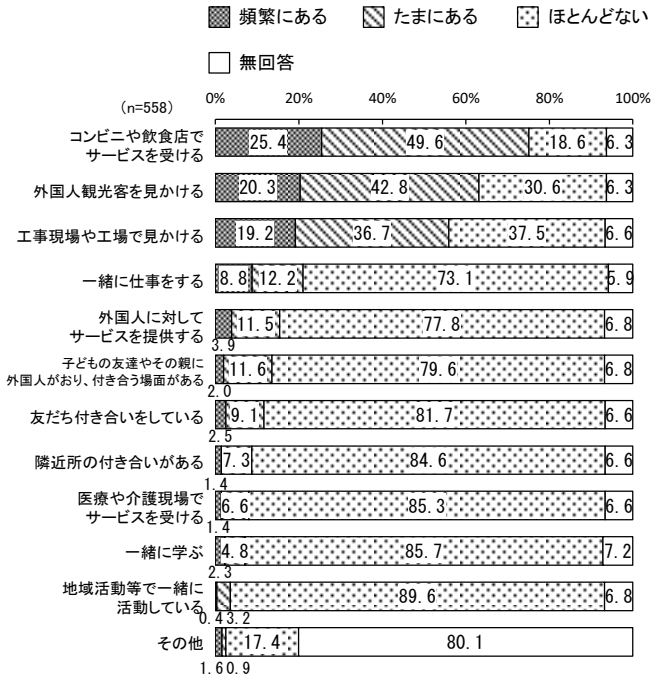


2. 外国人区民との関わりなどについて

(問1～問7)

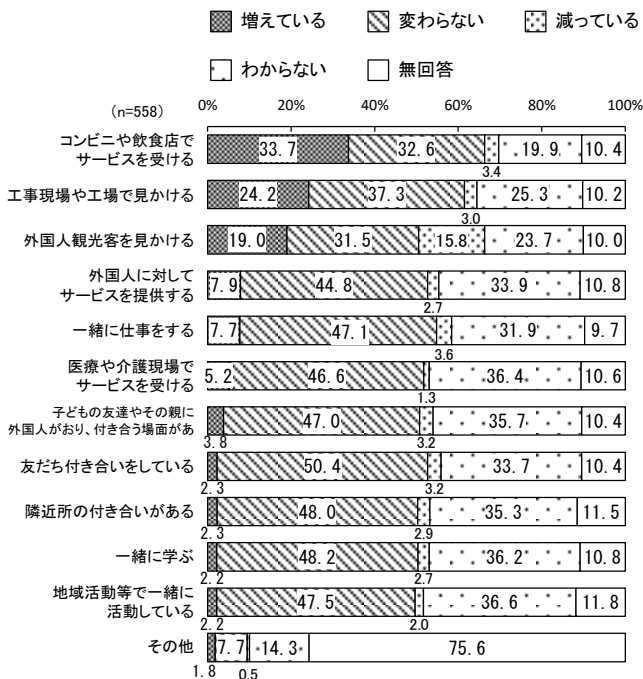
(1-①) 外国人との関わり状況

・「頻繁にある」と「たまにある」をあわせた割合では、「コンビニや飲食店でサービスを受ける」が75.0%で最も高く、「外国人観光客を見かける」(63.1%)、「工事現場や工場で見かける」(55.9%)も半数を超えている。



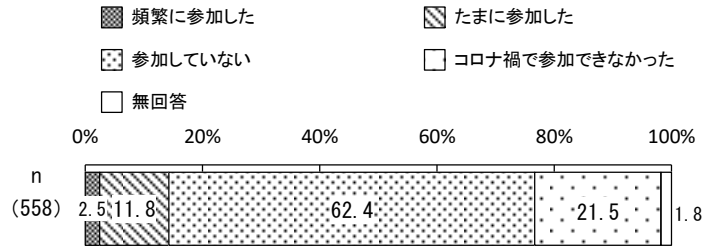
(1-②) 4年前との比較 (前回プラン策定時)

・「増えている」は「コンビニや飲食店でサービスを受ける」が33.7%、「工事現場や工場のみかける」が24.2%、「外国人観光客を見かける」が19.0%となっている。



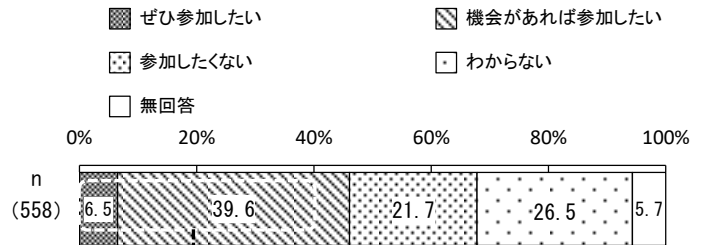
(2-①) 直近1年間の地域活動への参加状況

・「頻繁に参加した」(2.5%)と「たまに参加した」(11.8%)をあわせた割合では、14.3%の参加率となっている。



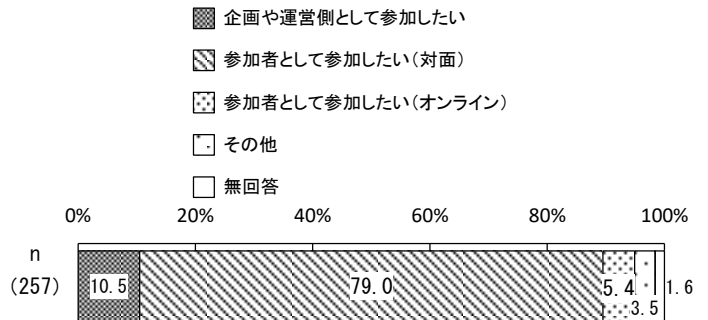
(2-②) 地域活動への今後の参加意向

・「ぜひ参加したい」(6.5%)と「機会があれば参加したい」(39.6%)をあわせた割合では、46.1%の参加意向がみられる。



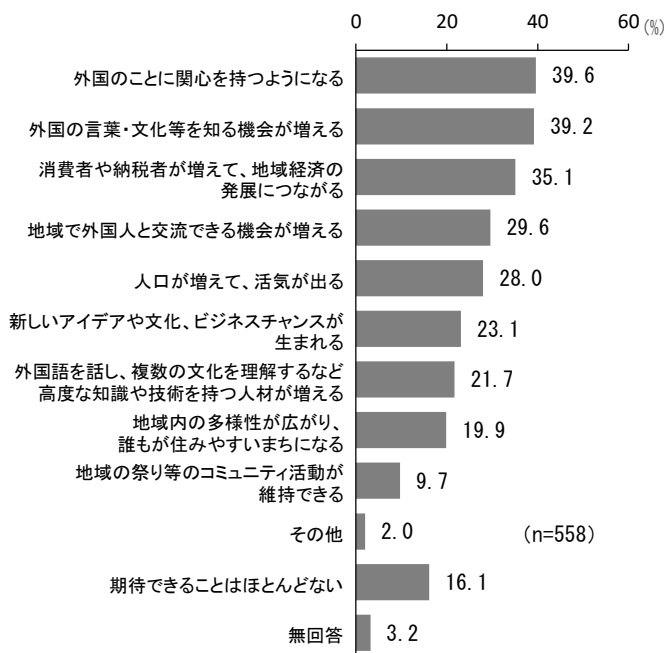
(2-1) 地域活動での希望する参加形式

・「参加者として参加したい(対面)」が79.0%で最も高い。



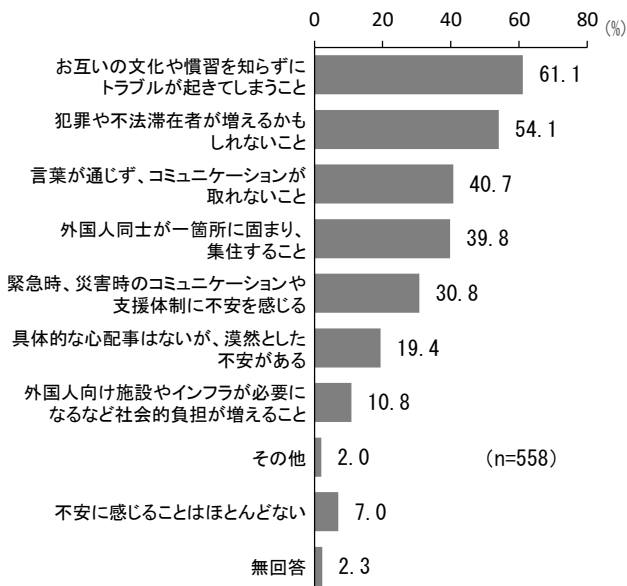
(3) 外国人が地域に増えることによるメリット (複数回答)

・「外国のことに興味を持つようになる」(39.6%)、「外国の言葉・文化等を知る機会が増える」(39.2%)が僅差で上位にあげられている。



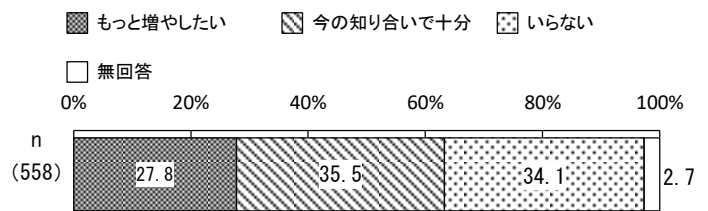
(4) 外国人が地域に増えることで、心配や不安に感じること (複数回答)

・「お互いの文化や慣習を知らずにトラブルが起きてしまうこと」が61.1%で最も高くなっている。



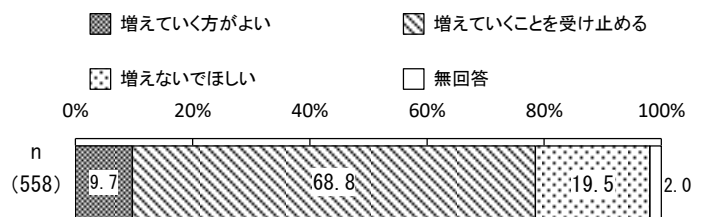
(5) 地域に外国人の知り合いがほしいか

・「もっと増やしたい」が27.8%、「今の知り合いで十分」が35.5%、「いらない」が34.1%となっている。



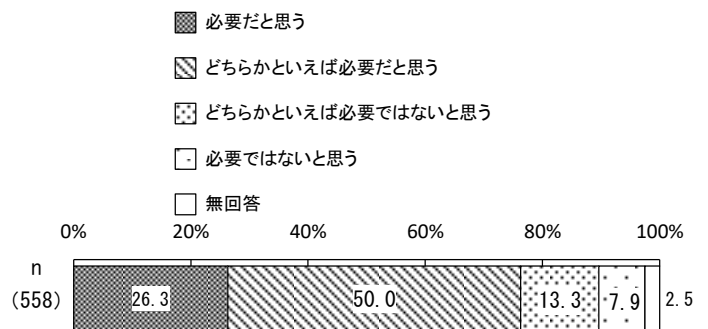
(6) 区内で暮らす外国人の増加傾向が継続することについて

・「増えていく方がよい」(9.7%)と「増えていくことを受け止める」(68.8%)をあわせた割合では、78.5%の日本人が増加傾向の継続に理解がある。



(7) 今後、地域で外国人が活躍することは必要か

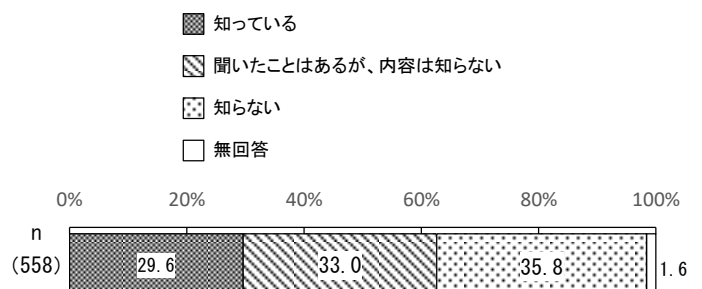
・「必要だと思う」(26.3%)と「どちらかといえば必要だと思う」(50.0%)をあわせた割合では、76.3%の日本人が必要だと思っている。



3. 多文化共生のまちづくりについて [問8～問15]

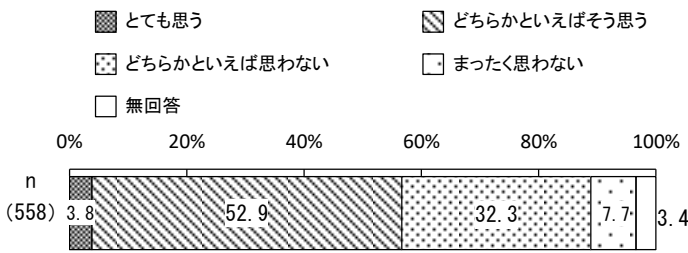
(1) 多文化共生という言葉の認知度

・「知っている」(29.6%)と「聞いたことはあるが、内容は知らない」(33.0%)をあわせた認知度は62.6%となっている。



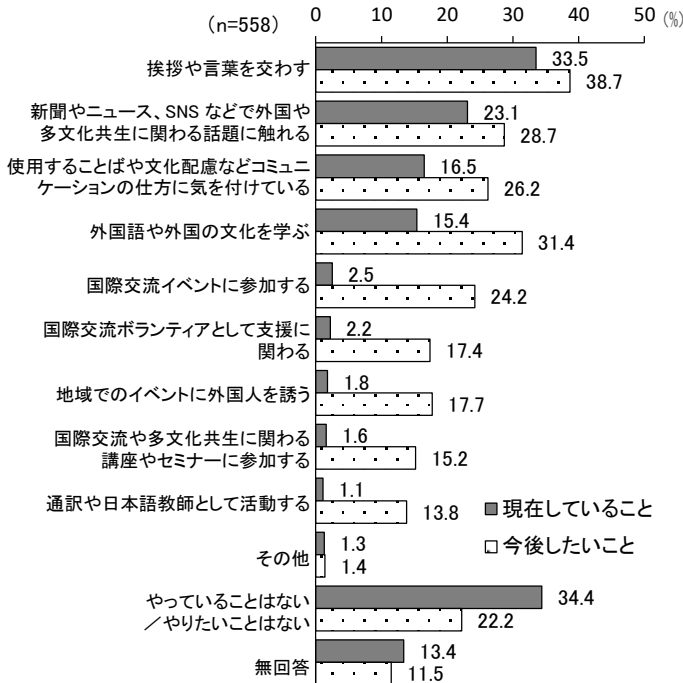
(2) 大田区では、日本人と外国人が互いに認め合い、暮らしていると思うか

・「とても思う」(3.8%)と「どちらかといえばそう思う」(52.9%)をあわせた 56.7%の日本人が、外国人と互いに認め合い、暮らしていると考えている。



(3) 多文化共生社会実現のために現在していること／今後したいこと (複数回答)

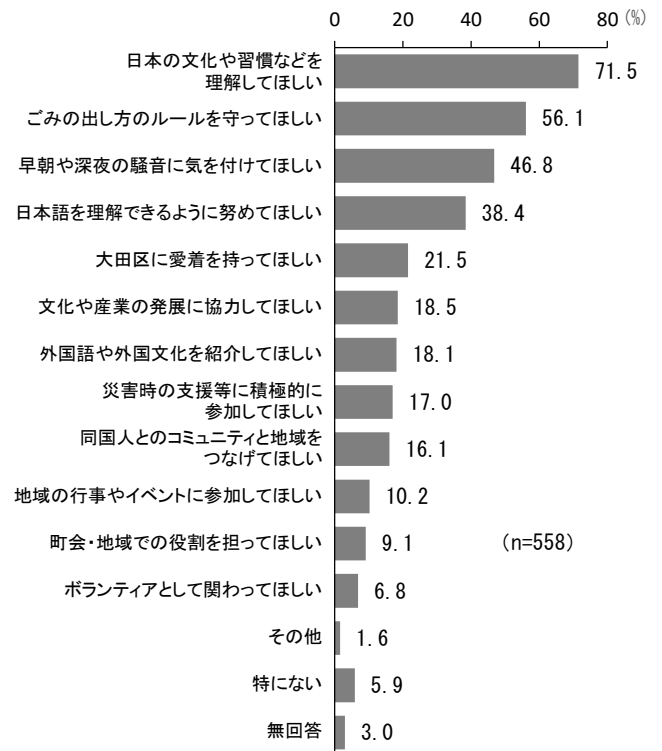
・現在していることでは、「挨拶や言葉を交わす」が 33.5%で最も高い。
 ・今後したいことでも「挨拶や言葉を交わす」が 38.7%で最も高い。
 ・今後したいことでは、現在していることをすべて上回っており、特に「国際交流イベントに参加する」は 21.7 ポイント上回り、「外国語や外国の文化を学ぶ」、「国際交流ボランティアとして支援に関わる」、「地域でのイベントに外国人を誘う」、「国際交流や多文化共生に関わる講座やセミナーに参加する」、「通訳や日本語教師として活動する」も 10 ポイント以上上回っている。



※項目の並びは“現在していること”基準

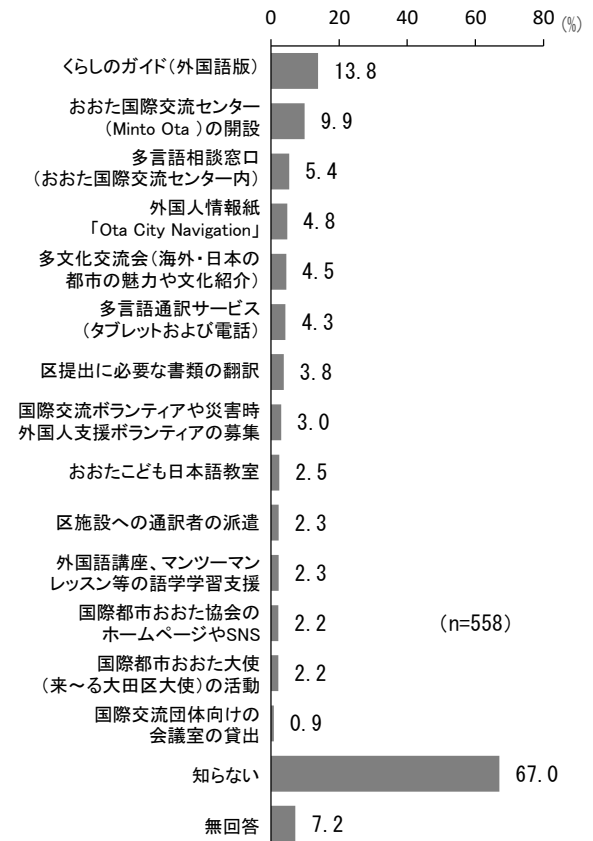
(4) 外国人に期待すること (複数回答)

・「日本の文化や習慣などを理解してほしい」が 71.5%で最も高い。



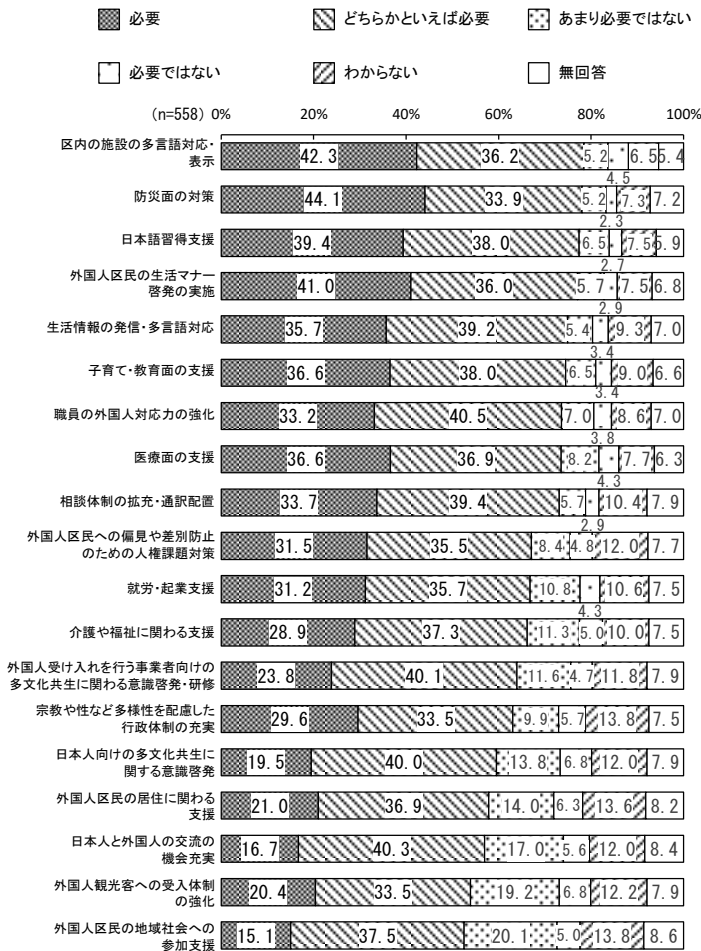
(5) 多文化共生に関するサービスや取組等の認知度 (複数回答)

・「くらしのガイド (外国語版)」が 13.8%で最も高い。



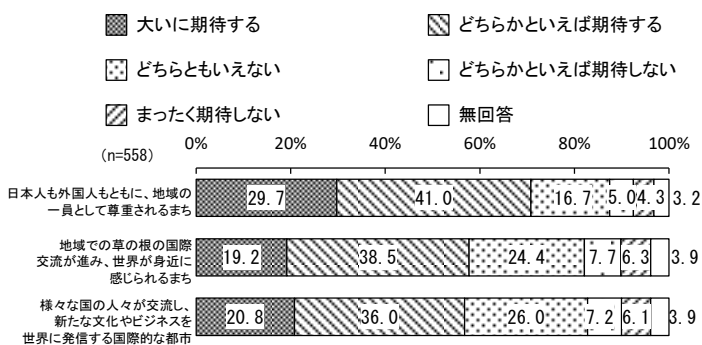
(6) 大田区の施策に対する必要度

・「防災面の対策」、「区内の施設の多言語対応・表示」、「外国人区民の生活マナー啓発の実施」では「必要」が4割台と強い要望がみられる。「必要」と「どちらかといえば必要」を合わせた割合では、すべての項目で5割から7割台となっている。



(7) 「国際都市おおた」への期待

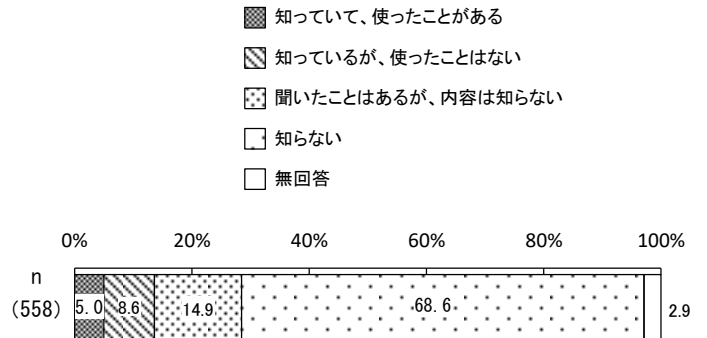
・「大いに期待する」と「どちらかといえば期待する」を合わせた割合では、「日本人も外国人もともに、地域の一人として尊重されるまち」が70.7%となっており、「世界が身近に感じられるまち」や「国際的な都市」も半数以上となっている。



(8) 「やさしい日本語」の認知度

※大田区では、他の国籍の方とコミュニケーションを取るために、長い文章を短くしたり、簡単な言葉に言い換えたりする「やさしい日本語」を活用しています。

・「知っていて、使ったことがある」は5.0%で、「知っているが、使ったことはない」(8.6%)を合わせた認知度は13.6%となっている。



令和4年度
大田区多文化共生実態調査
【報告書概要版】

令和5年3月
【発行】大田区 スポーツ・文化・国際都市部
国際都市・多文化共生推進課
〒144-0052
大田区蒲田4-16-8 2階
(おおた国際交流センター)
電話 03-5744-1227 (直通)